

今を未来に

卒業式における卒業生の服装等について

本校の卒業式は、四日市市教育委員会の趣旨に基づき、小学校6年間の教育課程をすべて終了したことを認め、中学校でのさらなる飛躍を願うとともに、子どもたちの6年間の学びや成長の姿を披露する最後の授業として位置付けています。

つきましては、厳粛な雰囲気の中で、参列者全員で祝福し、ぬくもりと感動がある卒業式を挙げるにあたり、下記のことを保護者の皆様にご理解とご協力をお願いしたいと思います。

- ① 『卒業式は最後の授業である』という趣旨をご理解いただき、お子さまの服装については、式にふさわしい服装で臨むようご配慮をお願いします。
- ② 羽織・袴(はかま)等の着慣れない服装は、着崩れをしたり、トイレに行ったりした後、お子さまが自分自身で直せないといった問題や、早朝からの準備で体調を崩し、式の最中に不調を訴える等の健康面での問題も見受けられました。式当日、お子さまが困惑したり、体調不良を訴えたりすることがないようにご配慮をお願いします。
- ③ お子さまに華やかな装飾やヘヤメイク、化粧やネイル等を施すことについては、卒業式の趣旨にそぐわないことから、差し控えていただきますようお願いいたします。

尚、平成30年度(昨年度)の卒業式では羽織・袴等の着慣れない服装で卒業式に出席した児童はいませんでした。各担任からの問いかけや、児童一人ひとりが仲間のことを考えた上で判断してくれたのだと捉えています。今年度の6年生にも改めて担任から上記の事を説明しますので、保護者の皆様もご理解とご協力をお願いします。

スクールカウンセラーによる教育相談

長かった10連休も終わり、本格的な授業が始まり1週間が経過しましたがお子さまの様子はいかがでしょうか。この時期は、わくわくした気持ちや、少し不安な気持ちなどいろいろな気持ちが出てくる季節です。

お子さんのことや、家庭での子育て等で悩んでいることがありましたら、一度スクールカウンセラーを活用してみたいでしょうか。お子さんの相談だけでなく保護者の皆様の相談も受けています。本年度もスクールカウンセラーは、竹中薫(たけなかかおり)さんが来校します。

相談日程は予約制となっていますので、担任や教頭(田中伸一)まで電話にて希望の日時をご連絡ください。調整後に正式な相談日時をお知らせします。

【四日市市立保々小学校 TEL: 339-0006】

○開室時間: 10時~16時まで

○場 所: 相談室(※保健室の隣にあります。)

○相談日 : 毎週金曜日

5月→24日、31日

6月→ 7日、14日、21日、28日

7月→ 5日、12日

9月→ 6日、13日、20日、27日

10月→ 4日、11日、18日、25日

11月→ 8日、15日、22日、29日

12月→13日

1月→10日、17日、24日、31日

2月→7日、14日、21日、28日

3月→ 6日、13日

一斉下校の実施

5月8日（水）に一斉下校を実施しました。始業式や入学式から1か月が経過し、多くの児童が学校にも慣れ、そろそろ気が緩む時期に入りました。登下校においても、通学路に慣れはじめ、遊びながら登下校する児童の姿がちらほら目につきます。

そこで、あらためて下記のような安全確認を全校児童でおこない、交通事故や登下校中のトラブル予防に努めました。

- ① 道路へ飛び出さない。左右の安全確認を必ずおこなう。
- ② 信号を守り、横断歩道を渡る。
- ③ 遊びながら登下校しない。
- ④ 列を崩さず集団登校をする。

【保護者の皆様にお願い】

登下校の安全確保のため、時間に余裕のある方は、家の近くの通学路等で見守り活動にご協力ください。また、家庭でも信号を守り横断歩道を利用したり、道いっぱいになって歩かないなど、交通ルールをしっかりとご指導をお願いします。また、集団登校に間に合うように、時間に余裕をもたせて登校させてください。『自分の命は自分で守る』この姿勢を身につけられるようにご協力をお願いします。

5年生田植えの体験学習

5月8日（水）1・2限目に、5年生が田植えの体験学習をおこないました。当日は、雲一つない晴天に恵まれ、予定通り田植えの体験活動を終えることができました。『保々の自然に親しむ会』柴田正会長をはじめ会員の皆様のご協力、ご指導のもと田植えの体験学習をスムーズに進めることができました。

最初に学校近くの水田で講師（技術指導員）の紹介と、大きく引きのばされたイネの栽培暦をつかって、山川技術指導員からイネの特性について説明がありました。

その後『保々の自然に親しむ会』山川指導員から、田植えの仕方と、苗の品種がコシヒカリであることを教わり、5年生全員で水田に入り、田植えをおこないました。昔ながらに、水田に網を張り、目印のところに苗を植え付けるのですが、初めて体験する児童が多く、悪戦苦闘しながら楽しそうに取り組んでいました。

保々地区は、北勢地域で米の生産量が多く、農業に従事する家庭も多い地域ですが、実際に田植えや稲刈りをする機会が少なく、毎日食べている米がどのように生産されているのかわからない児童も少なくありません。

そこで、このような取り組みは、米作りの文化を知る絶好の機会だと考えています。

